

2010年度入試 直前動向分析

大学入試センター試験まで残り1ヶ月半となり、今年も本格的な入試シーズンを迎えた。

選抜方法の変更は落ち着きを見せるが、来春入試では、引き続き医学科の入学定員の増加、立命館大、近畿大、関西学院大といった関西有力私大の学部・学科の新設といった動きがみられる。また、昨年秋以降の景気悪化が受験生の志望選別に少なからず影響を与えている。

ここでは、11月に実施した第3回全統マーク模試の志望データをもとに2010年度入試の動向を探ってみる。

国公立大学編

◆センター試験出願者は2年連続の増加

はじめに、大学入試センターから10月14日に公表された受付最終日時点の大学入試センター試験（以下「センター試験」）の出願状況を確認しておきたい。出願者総数は、前年の同時点より1,928人（0.4%）増の526,406人となっている【表1】。内訳をみると、高校等卒業見込者（現役生）は昨年より2,720人（0.6%）の増加となった。これは、9年ぶりの18歳人口の増加に加え、現役生のセンター試験志願率の上昇によるものである。一方、高卒者等は792人（0.8%）減となっているが、昨年の2千人減に比べると減少は小幅になっている。

なお、前年度の最終志願者数は、この時点から2万人ほど増加しており、最終発表では前年を上回り、55万人前後になるものと思われる。

◆安定した人気の国公立大

ここからは第3回全統マーク模試の志望データをもとに、国公立大の志望動向をみていこう。

模試受験者数の前年比100.8%と比べると、本模試における国公立大全体の志望者は前期日程で同100.9%となっており、昨年から大きな変化はみられず、安定した人気うかがえる

【表1】高卒者数とセンター試験志願者数推移

	高卒者数	受付最終日志願者数			
		全体	現役	(志願率)	高卒等
2009年度	1,065,158	524,478	426,931	40.1%	97,547
2010年度	1,062,473	526,406	429,651	40.4%	96,755

※高卒者数は学校基本調査（速報版）より、2010年度の高卒者数は河合塾推計
※志願者数は受付最終日17時現在の数値

【表2】国公立大志望動向：日程別（第3回全統マーク模試より）

	前期			後期		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
前期	170,702	172,277	100.9%			
後期	79,909	80,516	100.8%			

【表2】。後期日程では、近年、難関大を中心として後期日程の廃止・縮小が続く、模試においても志望者の減少が続いていた。しかし、本模試では、前年比100.8%と前年並みとなり、後期日程の志望者減少に歯止めがかかった。来春入試では、他大学に大きな影響を与えるような大学の後期日程の廃止がないため、志望状況が安定してきている。加えて、前期日程の募集人員のうち69名を後期日程にシフトする**岐阜大**の工学部が志望者を410人→608人（前年比148.3%）と大幅に増やすなど、後期日程の新規実施や募集人員拡大の動きも志望者増加の要因の一つとなっている。

国立大と公立大を比較すると、国立大に比べ、公立大で志望者がやや増えている【表3】。国立大のほとんどがセンター試験で7科目必要であるのに対し、公立大は3～4教科で受験できる大学が多いため、不況の影響で授業料の安い公立大を志望する私大型生が増えているものと思われる。

【表4】は国公立大の志望者を難関大とその他の大学に分類し、それぞれの志望者数の前年比を比較したものである。前期日程をみると、難関大の志望者数が前年比98.7%であるのに対し、その他大は同101.9%と国公立全体の平均を上回っている。確実に合格できそうな大学を志望する安全志向、地元を志望する地元志向が働いているようだ。

【表3】国公立大（前期）志望動向：国立・公立別（第3回全統マーク模試より）

	昨年	今年	前年比
国立大	137,529	138,684	100.8%
公立大	33,173	33,593	101.3%

【表4】国公立大志望動向：大学グループ別（第3回全統マーク模試より）

	前期			後期		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
難関大	52,700	52,032	98.7%	16,161	15,493	95.9%
その他	118,002	120,245	101.9%	63,748	65,023	102.0%

難関大は、旧帝大+東医歯大+東工大+一橋大+神戸大+広島大

◆京都大・名古屋大で志望者増加

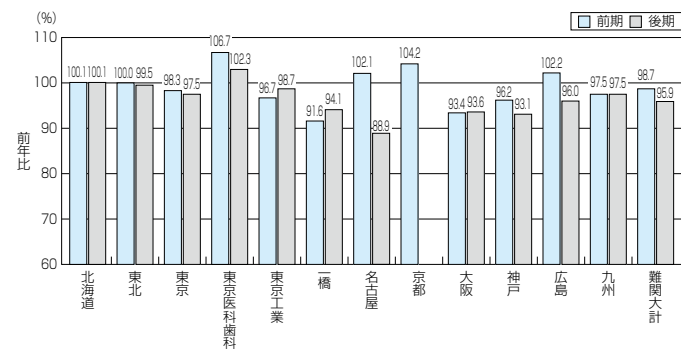
【グラフ5】は旧帝大をはじめとする難関大について日程別に志望者の前年比を表したものである。

前期日程で最も志望者の増加率の高い**東京医科歯科大**（前年比106.7%）は、歯学部が前年比89.7%と減らしているものの、医学部で同111.9%と志望者を集めて増加している。今春入試で人気の高かった**名古屋大**（同102.1%）、**京都大**（同104.2%）の人気は衰えることなく、前年以上の志望者を集めた学部が多くみられた。**広島大**（同102.2%）は、過去3年間の本試験での志願者が4,038人→4,266人→3,949人と隔年現象を起こしており、今春減少した反動が出ているようだ。前年比98.3%の**東京大**は、若干数値は下がっているが、ここ2年の入試で1万人前後の志願者を集めており、高い人気を維持しているといえる。

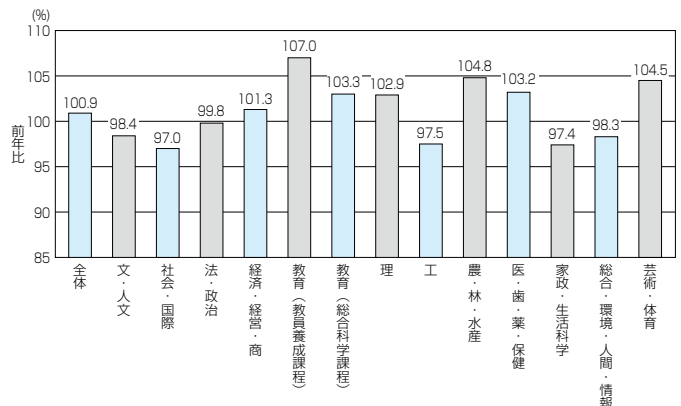
一方、**一橋大**や**大阪大**、**神戸大**では志望者が減っている。しかし志望者の減少はボーダーライン以下の層によるもので、成績上位層はむしろ厚くなり、大阪大ではボーダー得点率が上昇している学科も多い。近畿圏では、教員養成系や看護といった分野での志望者が増加しており、受験生がより現実的な志望校選択をしている様子が感じられる。

後期日程では、難関12大学の募集人員の約半数を占めている大阪大、神戸大が志望者を大きく減らした影響で、全体の前年比が95.9%となった。

【グラフ5】 国立難関大の志望動向（第3回全統マーク模試より）



【グラフ6】 国公立大(前期) 学部・系統別志望動向(第3回全統マーク模試より)



◆教員養成課程の人気復活

続いて学部系統別の志望動向を見ていこう【グラフ6・表7】。

昨年の秋以降の景気悪化は、既に進路選択を固めていた受験生の動向にあまり影響を与えなかったが、本模試では、社会情勢の変化が志望に影響を与えている様子がみられた。

文系の大きな特徴は、近年減少傾向にあった教育系学部での志望者の増加である。「教員養成課程」が前年比107.0%、「総合科学課程」が同103.3%と、ともに大きく増加に転じている。不況の影響から就職を意識し、教育系を志望する受験生が増えているようだ。その他の系統では、「経済・経営・商」学系が前年比101.3%と、近年の人気を維持している。前年比97.0%と前年を下回った「社会・国際」学系の詳細分野を見ると、「社会福祉」が同91.5%と大きく減っている。教育と同じ資格系ではあるが、こちらは志望者の減少が続いている。

理系で志望者を増やしているのは、今春入試でも人気系統であった「理」「農・林・水産」学系である。本模試においてもそれぞれ前年比102.9%、104.8%と人気は続いている。「理」学系では「地学・他」を除いて軒並み志望者が増加している。「農・林・水産」学系では「獣医」「酪農・畜産」といった動物を主に扱う分野では志望者が減少しているが、他の分野では志望者が大きく増加している。また、昨年志望者の減少が目立っていた「医・歯・薬・保健」学系も前年比103.2%と志望者を集めており、ここでも資格系学部の人気回復がうかがえる。特に「看護」は前年比110.7%と志望者の増加が著しい。「医」は現

【表7】 詳細分野別志望動向の抜粋（第3回全統マーク模試より）

学部系統	詳細分野	前期日程		
		昨年	今年	前年比
社会・国際	社会	2,716	2,688	99.0%
	社会福祉	1,165	1,066	91.5%
	国際経済	440	431	98.0%
	国際関係	1,495	1,455	97.3%
理	理学系一括	2,530	2,545	100.6%
	数学・数理情報	1,285	1,315	102.3%
	物理	1,165	1,196	102.7%
	化学	1,535	1,713	111.6%
	生物	1,371	1,429	104.2%
	地学・他	839	777	92.6%
工	工学系一括	2,924	2,925	100.0%
	機械・航空	9,741	8,744	89.8%
	電気・電子	4,820	4,941	102.5%
	通信・情報	5,723	5,887	102.9%
	建築	3,108	3,044	97.9%
	土木・環境	2,395	2,329	97.2%
	応用化学	3,644	3,731	102.4%
	材料・物質・資源	3,200	3,082	96.3%
	生物工	1,011	1,045	103.4%
	経営・管理・船舶・他	1,792	1,661	92.7%
農・林・水産	農学系一括	1,634	1,674	102.4%
	生物生産・応用生命	5,340	5,794	108.5%
	環境科学・経済システム	1,651	1,790	108.4%
	獣医	1,454	1,300	89.4%
	酪農・畜産	341	298	87.4%
	水産	677	769	113.6%
医・歯・薬・保健	医	10,625	10,486	98.7%
	歯	679	611	90.0%
	薬	2,936	2,910	99.1%
	看護	7,864	8,709	110.7%
	医療技術	5,081	5,380	105.9%
	保健・福祉	247	206	83.4%

時点では前年比98.7%と前年をやや下回っているが、後述する通り、今後入学定員の増加が予定されている。昨年も入学定員増が公表された後に志望者が増えており、これから増える可能性が高いので注意したい。

「工」学系をみると「理」学系人気に引っ張られる形で、「電気・電子」や「情報・通信」、「応用化学」、「生物工」では前年比2～3%増となっているが、自動車関連などのメーカー企業の経営不振が報道されている影響もあり、「機械・航空」は同89.8%と大幅に減少している。

「芸術・体育」学系の前年比104.5%は、これまで後期日程で入試を行ってきた**東京芸術大**の美術学部が前期日程での実施に変更となった影響によるものである。

最後に、センター試験本番に向けて注目される点を列挙しておく。

①医学科の定員増

医師不足対策として、2年連続で入学定員を増やした医学科では、2010年度もさらに最大で369名の増員が計画されている。どの大学で何名増員されるのか等の詳細は、現時点で不明である。

各大学の具体的な増員数・選抜方法については、今後募集要項やHPにて公表される。各大学の最終確定人数は本誌1・2月号でお伝えする。

②国公立大のインフルエンザ対策

新型インフルエンザの感染拡大に備え、文部科学省より発表されたインフルエンザへの対応指針では、センター試験の追試験延期の発表とともに、各大学の個別学力検査においてもインフルエンザなどで試験を欠席した受験生の受験機会の確保を要請している。これを受け、国立大学協会、公立大学協会は、追試験については本試験の概ね1週間後に実施し、合格者の決定・発表は本試験・追試験あわせて行うという方針を発表した。また、国立大学協会は、個別学力検査の出願期間は変更しないこともあわせて公表している。実施の判断は各大学に委ねられている。各大学の対応についても本誌1・2月号でお伝えする。

以上、国公立大入試の動向について、ポイントとなる点を中心にみてきた。国公立大の志望動向はセンター試験の平均点次第で例年大きく変わるので、センター試験後の動きについても十分注意したい。

私立大学編

◆私立大志望者は前年並み

第3回全統マーク模試での私立大全体の志望者数は前年比99.9%とほぼ前年並みの数字となっている。模試受験者数、国公立大志望者数が増加していることを考えると、やや敬遠傾向といえるものの、来春入試では大学志願者数の増加が見込まれることから、私立大志願者数は今春並みとなることが予想される。

方式別の志望者は一般方式が前年比99.3%、センター利用方式が同101.6%。今春入試では志願者数の伸びが鈍くなっていたセンター利用方式だが、2010年度より新たにセンター利用する**青山学院大**（教育人間科学）、**法政大**（スポーツ健康）、**関西大**（外国語）などの難関大では堅調に志望者を集めている。

◆地元志向・安全志向強まる 都市部難関大では志望者減少

さらに詳しく私立大の志望動向を見ていくと、今春入試で見られた2つの傾向がより色濃くなっていることが分かる。1つめは「他地域大学の敬遠（＝地元志向）」である。**【表8】**は今

回の模試における受験生の地域間移動の状況をまとめたものである。「所在エリア内の大学を志望」は前年比102.8%であるのに対し、「他エリアの大学」は95.0%と減少しており、地元志向が鮮明に現れている。

2つめは「都市部難関大の志望者減少」である。**【表9】**は主要大の志望動向を大学グループごとにまとめたものである。首都圏では、「早慶上理」が前年比96.8%と志望者を減らしているのに対し、「MARCH」は前年並みの99.4%、「日東駒専」は107.8%と大幅に増加している。なお、最難関の「早慶上理」は過熱していた人気が落ち着いたものの、成績上位層は減っておらず、難易度に大きな変化はみられない。

近畿圏では地区全体で私立大敬遠の傾向が強く現れており、「関関同立」で94.1%、「産近甲龍」で93.0%といずれも志望者を大きく減らしている。

中部地区や九州地区では、各地区の「拠点大」の志望者数の伸びが鈍化しているのに対し、「その他の大学」の志望者は増加しており、2極化傾向に歯止めがかかっている。

また、一般方式の志望者数を大学の入試難易度別にみると、ボーダー偏差値が55.0以上の大学群では前年比97.5%、55.0未満の大学群では前年比100.8%となっている**【表10】**。昨年から続く不景気の影響から、難関大を避けて堅実に合格をめざす受験生の心理が働いているようだ。

【表8】 受験生の地域間移動の状況（第3回全統マーク模試より）

	昨年	今年	前年比
所在エリア内の大学を志望	729,077	749,639	102.8%
他エリアの大学を志望	426,570	405,317	95.0%

※エリアは11（北海道・東北・北関東・南関東・甲信越・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州）に分けて集計

【表9】全国主要私立大 志望動向（第3回全統マーク模試より）

大 学	一般方式			センター方式			合計		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
早慶上理	90,200	87,499	97.0%	29,024	27,909	96.2%	119,224	115,408	96.8%
早稲田	43,284	41,976	97.0%	12,679	11,877	93.7%	55,963	53,853	96.2%
慶應義塾	22,233	20,720	93.2%	4,487	3,993	89.0%	26,720	24,713	92.5%
上智	14,377	14,244	99.1%				14,377	14,244	99.1%
東京理科	10,306	10,559	102.5%	11,858	12,039	101.5%	22,164	22,598	102.0%
MARCH	133,897	128,918	96.3%	50,481	54,298	107.6%	184,378	183,216	99.4%
明治	37,260	37,537	100.7%	13,285	16,174	121.7%	50,545	53,711	106.3%
青山学院	23,237	21,068	90.7%	6,974	7,570	108.5%	30,211	28,638	94.8%
立教	23,057	22,451	97.4%	10,661	10,306	96.7%	33,718	32,757	97.1%
中央	20,731	19,067	92.0%	11,200	10,510	93.8%	31,931	29,577	92.6%
法政	29,612	28,795	97.2%	8,361	9,738	116.5%	37,973	38,533	101.5%
日東駒専	62,285	66,507	106.8%	24,062	26,611	110.6%	86,347	93,118	107.8%
日本	27,682	28,750	103.9%	10,980	11,988	109.2%	38,662	40,738	105.4%
東洋	16,743	18,730	111.9%	6,114	7,229	118.2%	22,857	25,959	113.6%
駒澤	8,799	8,710	99.0%	3,403	3,545	104.2%	12,202	12,255	100.4%
専修	9,061	10,317	113.9%	3,565	3,849	108.0%	12,626	14,166	112.2%
関関同立	79,052	76,655	97.0%	43,574	38,754	88.9%	122,626	115,409	94.1%
関西	22,982	22,042	95.9%	8,117	8,255	101.7%	31,099	30,297	97.4%
関西学院	16,151	16,519	102.3%	6,639	6,023	90.7%	22,790	22,542	98.9%
同志社	19,469	18,642	95.8%	10,409	9,384	90.2%	29,878	28,026	93.8%
立命館	20,450	19,452	95.1%	18,409	15,092	82.0%	38,859	34,544	88.9%
産近甲谷	38,644	35,731	92.5%	11,324	10,761	95.0%	49,968	46,492	93.0%
京都産業	7,005	5,872	83.8%	1,688	1,681	99.6%	8,693	7,553	86.9%
近畿	15,440	15,448	100.1%	5,217	4,942	94.7%	20,657	20,390	98.7%
甲南	5,435	4,895	90.1%	1,558	1,573	101.0%	6,993	6,468	92.5%
龍谷	10,764	9,516	88.4%	2,861	2,565	89.7%	13,625	12,081	88.7%
北海道2大学	4,852	4,528	93.3%	3,437	3,517	102.3%	8,289	8,045	97.1%
北星学園	1,769	1,574	89.0%	1,410	1,284	91.1%	3,179	2,858	89.9%
北海学園	3,083	2,954	95.8%	2,027	2,233	110.2%	5,110	5,187	101.5%
東北学院	3,125	2,976	95.2%	1,973	1,879	95.2%	5,098	4,855	95.2%
愛知4大学	50,839	49,900	98.2%	17,716	17,517	98.9%	68,555	67,417	98.3%
愛知	8,257	8,519	103.2%	2,524	2,318	91.8%	10,781	10,837	100.5%
中京	12,767	11,632	91.1%	3,856	4,300	111.5%	16,623	15,932	95.8%
南山	13,741	13,796	100.4%	5,761	5,563	96.6%	19,502	19,359	99.3%
名城	16,074	15,953	99.2%	5,575	5,336	95.7%	21,649	21,289	98.3%
福岡2大学	10,682	9,739	91.2%	5,488	6,610	120.4%	16,170	16,349	101.1%
西南学院	3,026	2,694	89.0%	1,899	2,262	119.1%	4,925	4,956	100.6%
福岡	7,656	7,045	92.0%	3,589	4,348	121.1%	11,245	11,393	101.3%

【表10】私立大 難易度別の志望動向（第3回全統マーク模試より）

ボーダー 偏差値帯	志望者数(人)		前年比
	昨年	今年	
70.0～	29,505	28,376	96.2%
65.0～69.9	55,298	55,230	99.9%
60.0～64.9	141,953	138,669	97.7%
55.0～59.9	161,577	156,537	96.9%
50.0～54.9	171,924	172,954	100.6%
45.0～49.9	119,217	119,920	100.6%
40.0～44.9	62,839	65,920	104.9%
35.0～39.9	62,680	62,229	99.3%
BF(ボーダー・フリー)	15,696	14,836	94.5%
ボーダーなし	1,250	1,134	90.7%
全私立大	821,939	815,805	99.3%

※ボーダー偏差値帯は前年実態ベース（ないものは予想難易度を使用）
※数値は一般方式のみ集計

◆緩やかな文低理高

一部の資格系では人気回復

次に学部系統別の動向をみてみよう【グラフ11】。

今春入試と同様、緩やかな文低理高の状況が続いている。文系は各系統とも前年並みの志望者を集めており、動向に大きな変化はみられない。

理系では、国公立大同様、「理」「農」学系の人気が続いている。また、「医・歯・薬・保健」「家政・生活科学」「芸術・体育」で志望者が増加している。一方で、「工」学系は前年比

97.1%と志望者を大きく減らしている。「応用化学」や「生物工・生命工」で志望者を集めているものの、「機械・航空」での志望者減少が大きく影響している。

学系の詳細分野をみてみると、これまで人気低迷していた資格に直結する分野で人気回復しているケースがみられる。

「教育」「児童・保育」といった教育系分野では、志望者数が前年比108.3%、109.4%と国公立大同様、大幅に伸びている。一方、「社会福祉」分野では前年比95.1%と志望者減少が続いている。

医療系では、「医」「看護」「医療技術」の各分野で志望者が増加している。とくに「看護」は既存の大学での志望者増加に加え、学部・学科の新設も追い風となり、前年比119.4%と高い人気を示している。また、昨年まで志望者が減っていた分野であるが、今模試では「医療技術」は前年比102.1%と増加に転じている。

一方で志願者減少に歯止めがかからないのが「歯」（前年比79.7%）、「薬」（同90.3%）である。学費が高く、修業年数が長いわりに将来性に不安があるといったマイナスイメージを払拭できず、受験生から敬遠される傾向が続いている。

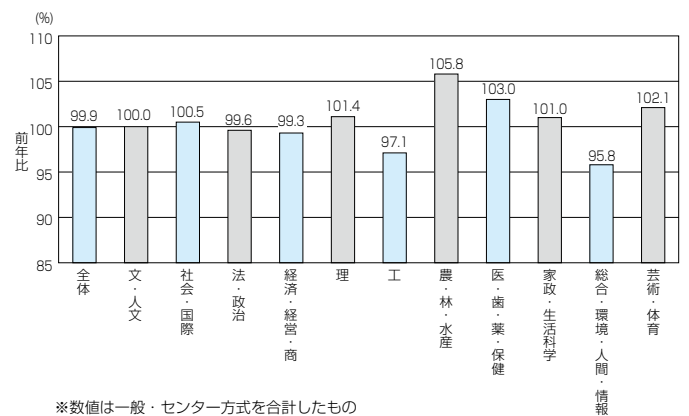
◆新設学部・学科の動き

最後に、新設学部・学科の動きをみておこう。学部系統別にみると、「医療・保健」「教育」「健康・スポーツ」「観光」といった分野での新設が目立つ。

主要大では昨年に続き、近畿地区での新設が多い。関西学院大（国際）は募集人員135人に対し、1,600人以上の志望者を集めており、厳しい入試となりそうだ。また、立命館大（スポーツ健康科学）や近畿大（総合社会－心理系、社会・マスメディア系）も高い人気を示している。

新型インフルエンザの感染拡大に備え、大学入試センターはセンター試験の追試験実施を1週間延期した。これに伴い、一部の大学ではセンター利用方式の合格発表日や手続締切日を変更している。また、追試験の実施、他方式への振替、受験料の返還などについても対応を明らかにした大学が出てきている。大学ホームページを確認するなどして、入試日の直前まで出願校の情報に注意してほしい。

【グラフ11】私立大 学部・系統別志望動向（第3回全統マーク模試より）



※数値は一般・センター方式を合計したもの